

- ☆ 亡妻との思ひ出の道麦の道 規雄 (万)
- 平日の公園ポートゆうると 亜也 (弘)
- ◎ 家康の茶をたてた水あめんぼう 天牛 (孤)
- みすじ蝶中田喜直の歌碑よぎる 全 (猛)
- 噴水や辯財天の赤御堂 全 (弘)
- 老いてから冴えし五感や新茶汲む 盛雄 (弘)
- (◎：季重なりと思うが、この場合「冴えし」は季節ではなく感覚だからいいのでは?)
- ☆ 核の水避けて風抱く鯉幟 全 (万)

● 次回青葉会

- 六月二十三日(木) 午後五時半～八時半 談話室
- ▲ 当季雑詠五句 投句二句 全
- 七月二十八日(木) 全 以上・文責 紀久男

平成二十八年五月句会報

一 大怪我されてから一年半ぶりの先生復帰。久しぶりの井の頭公園吟行に天牛さん以下11名参加。(投句5名)。すっかり快復された先生との再会を喜び乍ら暑からず寒からぬ曇天にも恵まれて、皆様張切っておられました。

先生はいつものナツプザツクに手提げ袋を二つも持つて……とても卒寿近いとは思えぬ元氣ぶりです。入園してから三、四組に分れ、先生は弘子さんと同行されました。動物園入口では「今日は象はな子は見られませんか」と係員。新聞・TVで相当弱っているとは知っておりましたが、象舎は回遊定番の真つ先に。「居るじゃないか!」とつい声を出しましたが、近眼の小生の錯覚：等身大の写真パネルでがっくり。彫刻館など見所は早足で回り、昼食に。蕎麦、焼き鳥、中華の各店に分かれましたが、時間なく食わず仕舞の人も居られました。

弘子さんに予約して貰った御殿山コミュニケーションセンター(武蔵野市立。「萬緑」多摩句会月例使用)。五郎太さん所用の為投句して帰られました。

先生から煎餅、弘子さんからお茶、小生の俵最中(俵屋)、亜也さんからの鯉佃煮(玉木屋)と命の水(純吟「真澄」)を賞味し乍ら開始。いつもの猛さんの披講で快調に進行。御覧のような成績でした。(尚、先月の句会記録は猛さんにワープロして頂きました)

(一) 御体調良ければ参加予定の正明さん、くに子さんのこと (二) 絹漱先生時代の井の頭吟行のこと (三) はな子のこと (四) 亜也さん転職のこと (五) そらおさん武蔵野第三小学校卒のこと等が話題になりました。

久しぶりに先生の御指導を仰ぐことが出来、皆様満足されたようです。遠出ままならない先生交えての句会を又、企画実現したいと思っております。買物される先生と吉祥寺駅ビルでお別れし、二次会に忠彦さんいきつけの中野の第二力酒蔵で水茄子・鰯刺身などで呑んで帰りましたら、はな子急死(午后三時頃)をTVで報道しておりびっくりしました。翌朝の新聞TVも大きく扱い、惜しんでおりました。先生のお気に入りでしたから、きつと気落ちされておられることと思えます。長寿で大往生なのかもしれませんが冥福を祈った次第です。

二 関係者近詠

- 青天に花楓揺れ吟行日 万里子 妻逝きし病棟の窓春ともし 規雄
- 大川や此岸彼岸も花盛り 全 | 「NHK俳句」 | 六月号 堀本裕樹選
- 満開の花々なべて俯き咲き 全 黒南風や鎖で閉ざす夜の波止場 盛雄
- 数珠確と親鸞像立つ花下真昼 全 迷ひ来て何か言いたげ黒揚羽 全
- 笠内の上人仰ぐ飛花の裡 全 五月闇情報鎖国の内見えず 健介
- 人と鳩共に昼寝の大川端 全

一万歩超えし吟行夕長し 万里子 我が家にも黄金週間児らの声 健介
 母亡くて卒業の髪姉が結ふ 眞希子 惜しまれて築地閉鎖の五月かな 紀久男
 塩ききし桜餅の葉退任へ 全 酒ビール鎖連歌の切もなく 全
 永き日の得したやうに働けり 全 「きさらぎ句会」 五月
 単線の線路ここまで犬ふぐり 弘子 衣替え一氣に出来ぬ歳を知る 保明
 目が合ひて猫に鳴かるる入彼岸 全 山法師四辺の先に光濃し 五郎太
 刷りたてのゲラふつくらと白木蓮 全 弁財天参道舊（へ）りて樟若葉 亜也
 朧夜や大学芋の蜜まみれ 全 万緑や癌病棟の四十日 盛雄
 妻はきのふ私はけふの初音かな 青史 縄文杉神さびてなほ若葉映ゆ 昇
 春筍の刺身の斯くもやはらかに 全 下船して釣果張り合ふ浜薄暑 全
 剪定は脚立の位置の厄介な 全
 真砂女忌やきりもなく飛ぶ杉花粉 全
 ゴルフアーの動き止まりし初音かな 紀久男

「萬緑」 六月号

三 「爽樹」創刊五周年記念祝賀会・・・5月29日 アルカディア市ヶ谷

孤舟さんが代表の「爽樹」が早くも五周年を迎え、記念事業の一環として祝賀会が来賓38名、
 会員90余名、13テーブル130数名の大人数で催され、小生も招ばれ出席しました。
 祝辞の大高務海（「風の道」・主宰）能村研三（「沖」・主宰）中原道夫（「銀化」・主宰）大
 竹多可志（「かびれ」・主宰）そして乾杯の音頭の星野高士（「玉藻」・主宰）皆さん、大向うを
 唸らせる上手いもので場馴れした感じでした。

孤舟さんの挨拶も仲々のもので感じいりました。鏡開き（「草林」・「銀漢」・「橘」・「帆」
 の各主宰や孤舟さんら）や来賓紹介、「俳句界」「俳壇」各編集長の祝辞等、盛り沢山で愉しい祝
 宴でした。これも記念事業の一つである「合同句集」（平成28年元日発行143名各20句）を土
 産として頂戴しました。幹部中心に小生好みの作品を抄出してみました。

早春のひかりに向かふ駿馬かな 孤舟 猪牙舟の舳左岸に桜闇 環順子
 白魚のひかりもろとも掬はるる 全 花とほとけ尋ぬる古都の片旅籠 全
 何気なき妻の一言山椒の芽 全 うつつ世を遊び呆けし花衣 全
 陽炎を咀嚼する牛草千里 全 深闇に徐々にやせゆく花簪 全
 山宿の朝備長の火の涼し 全 髪染めて君待ちあぐむ花の雨 阿部昭子
 ハンモック風の機嫌を聞いてをり 全 八重桜風の吐息に応へけり 全
 ネクタイを外しなさいよ四十雀 全 引き際の美学をよそにおでん酒 全
 シナトラのドーナツ盤や冬銀河 全 奥能登や会ふ人なくて波の花 曷川克
 鶴唳の湿原の朝動き出す 全 畔塗の光を塗つて仕上げとす 全
 ちようろぎや吾に反骨のまだありし 橋本良子 大地打つ万余の鶴の発つ羽音 全
 風鐸のかすかに揺るる蝶の昼 全 夕照の故山りんごの花ざかり 斎藤道正
 地震あとの冥き海鳴り星祭 全 あぢさゐの色の風くる山路かな 全
 相席の向かうもひとり新走り 全 雪形の現れし山里蠹（うごめ）けり 山田富朗
 寒昂仰ぎ先師の声聴かな 全 春宵や路地に流るる三の糸 全
 野ざらしの身のよみがへる花と酒 半田卓郎 フアーブルとなりて踏み入る夏の草 小林眞彦
 竹皮を脱ぐや句柄を変ふる時 全 悪役の背中が笑ふいなびかり 星井千恵子
 背負ふべき御霊の多し茄子の馬 全 牛舎にてシヨパンの調べ若葉光 黛道子
 熱爛や人いとほしく厭はしく 全 躊躇なく妻の手を引く恵方道 宮崎見昭
 後戻りできぬこの道冬怒涛 全 駅二つほどのしぐれや五能線 宮川迪夫
 ☆前代表小山徳夫の第三句集「春港」（2016年5月本阿弥書店）も合わせて頂戴しました
 。小生好み三句のみ紹介します。
 鬼の面ぼいと捨つれば初音かな 亡師を偲んで
 蔑切の張りゐる声のバリケード 白地着て翁と歌仙巻き居るか

平成二十八年六月八日

以上 紀久男記